

# 主要定期航路コンテナ貨物の荷動き動向

## (2015年1月26日分速報値※)

(公財)日本海事センター・企画研究部

(公財)日本海事センター・企画研究部は、PIERS (Port of Import/Export Reporting Service) の統計データを基に、『日本・アジア / 米国間のコンテナ貨物の荷動き動向』を毎月発表しております。それに加えて、欧州航路、日中航路、アジア域内航路の荷動き動向も発表しております。

### 主要航路の荷動きのポイント

**北米航路** 往航 (2014年12月) 1,175,971TEU (6.4%増) (2013年12月: 1,104,939TEU)

復航 (2014年11月) 511,382TEU (16.4%減) (2013年11月: 611,867TEU)

- 北米往航 (アジアから米国) は、前年同月比 6.4%増。雇用情勢、個人消費や住宅投資の順調さを背景に荷動き堅調。1-12月累計では 5.9%増。TSA 加盟船社は 11月に運賃修復を行い、直近は上昇傾向、12月にも運賃修復。
- 北米復航 (米国からアジア) は、前年同月比 16.4%減。1-11月の累計では 2.6%減。運賃 (ニューヨーク→塩田間) は 11月に 980ドル/TEU へ回復したが、12月は 960ドル/TEU へ下落。

**欧州航路** 往航 (2014年11月) 1,140,892TEU (7.3%増) (2013年11月: 1,063,413TEU)

復航 (2014年11月) 571,014TEU (2.5%増) (2013年11月: 567,920TEU)

- 欧州往航 (アジアから欧州) は前年同月比 7.3%増。1-11月累計では 8.8%増。経済成長率は高くないものの、堅調な消費を背景に荷動きはこれまで順調に推移。ただし供給増で9月以降運賃が下落、10月に行われた各社による運賃修復は不発。11、12月の運賃修復で運賃は上昇している。
- 欧州復航 (欧州からアジア) は前年同月比 2.5%増。1-11月累計では 1.5%増。運賃は 2014年4月以降は 850ドル/TEU 周辺で上下していたが、12月は 810ドル/TEU と下落した。

**日中航路** 往航 (2014年11月) 909,371トン (11.1%減) (2013年11月: 1,023,474トン)

復航 (2014年11月) 1,828,062トン (11.3%減) (2013年11月: 1,968,850トン)

- 日中往航 (日本から中国) は、前年同月比 11.1%減。金額ベースでは前年同月比 3.5%減の 6,087億円。横浜・上海間の運賃は 2013年2月をピークに水準が下落し、以降は 360~370ドル/TEU での推移が続いている。
- 日中復航 (中国から日本) は、前年同月比 11.3%減。金額ベースでは前年同月比 0.7%減の 1兆 1,655億円。CCFI によると、運賃は 9、10月は上昇したが、11月以降は下落している。

**アジア域内航路** (2014年11月) 1,255,565TEU (1.7%増) (2013年11月: 1,234,210TEU)

- アジア域内航路 (日中韓台香+ASEAN) は、前年同月比 1.7%増。1-11月の累計では 2.2%増。日本積みが前年同月比 3.3%減の 148,935TEU (シェア 11.9%)、日本揚げは同 5.9%減の 189,368TEU (同 15.1%)。韓国積みが前年同月比 10.5%減の 120,178TEU (シェア 9.6%)、韓国揚げは同 13.0%増の 117,220TEU (同 9.3%)。中国積みが前年同月比 4.0%増の 411,131TEU (シェア 33.9%)、中国揚げは同 1.0%減の 254,804TEU (同 20.2%)。

注1: 速報値ベースでの発表のため、後に修正が加わる場合がある。

注2: 日中航路荷動き量は財務省「貿易統計」をもとにした(公財)日本海事センターによるトンベースでの推計。



図 - 1 北米航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

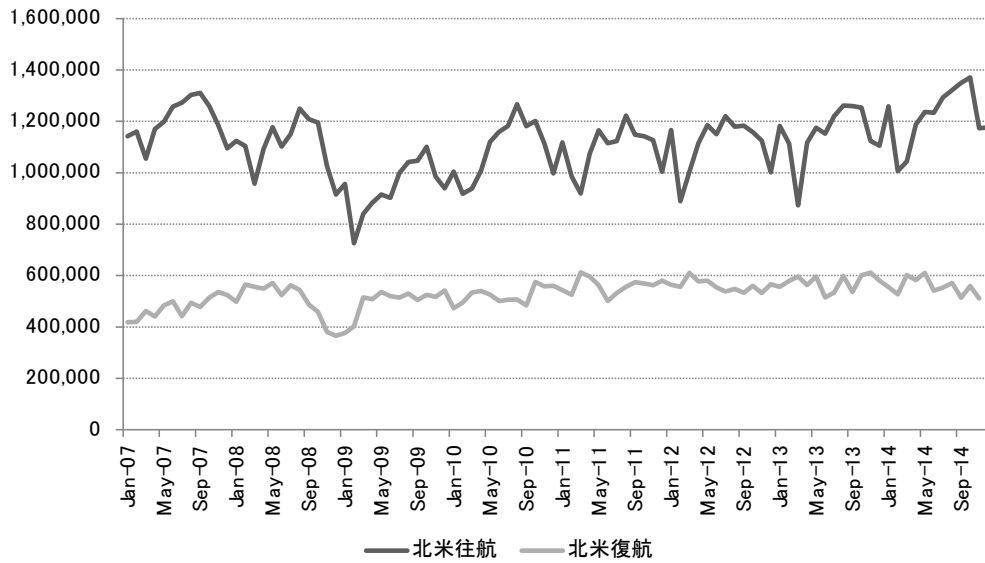


図 - 2 欧州航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

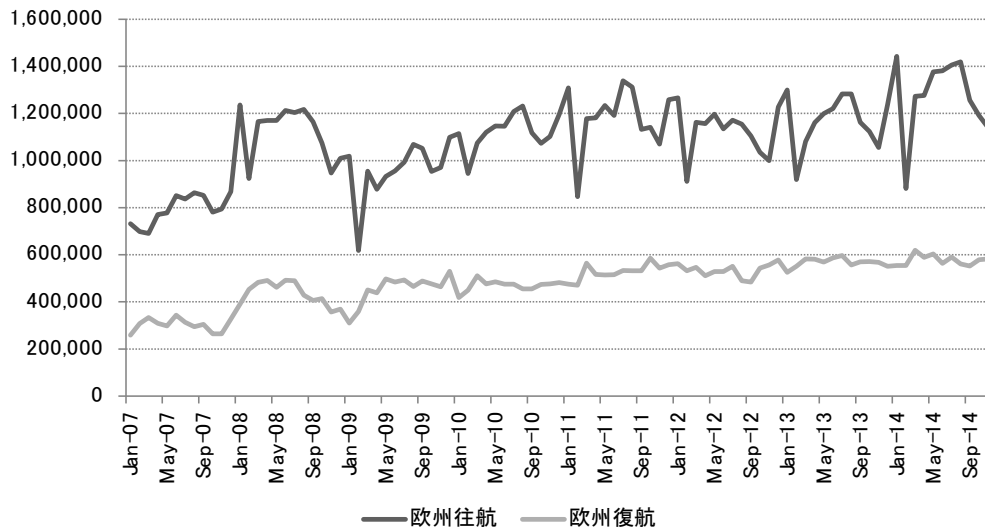


図 - 3 日中航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: トン)

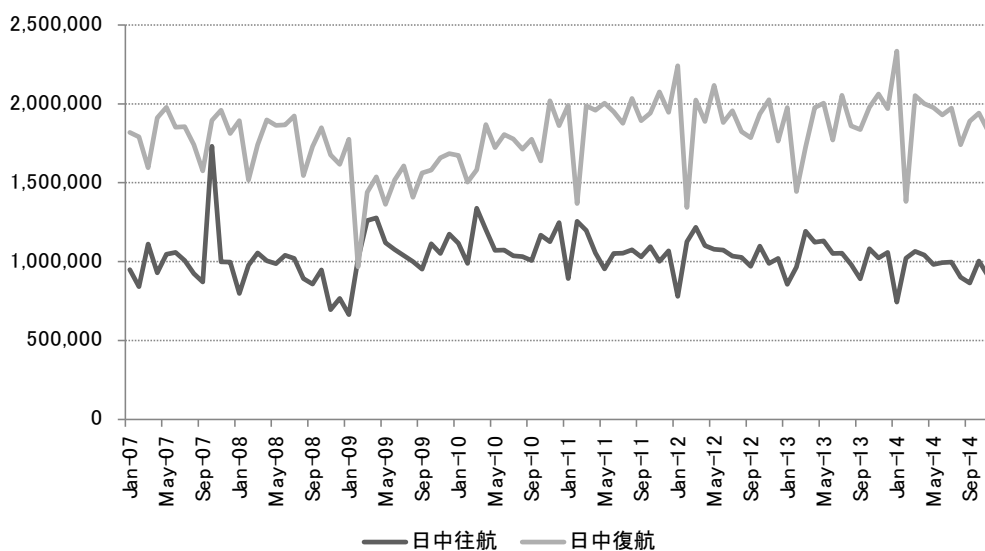


図 - 4 アジア域内航路におけるコンテナ輸送量の推移 ( 単位 : TEU )

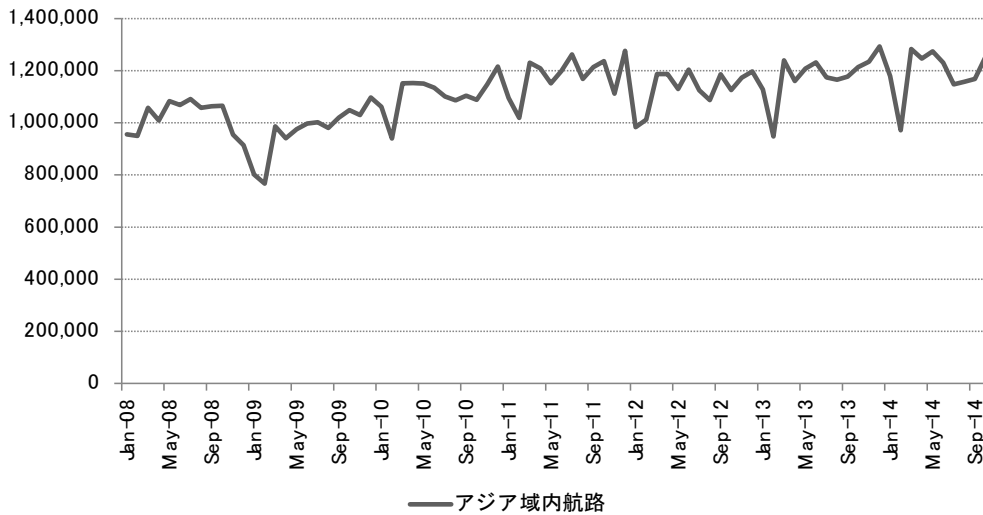


図 - 5 北米航路における運賃指数の推移 ( 単位 : ドル/TEU )

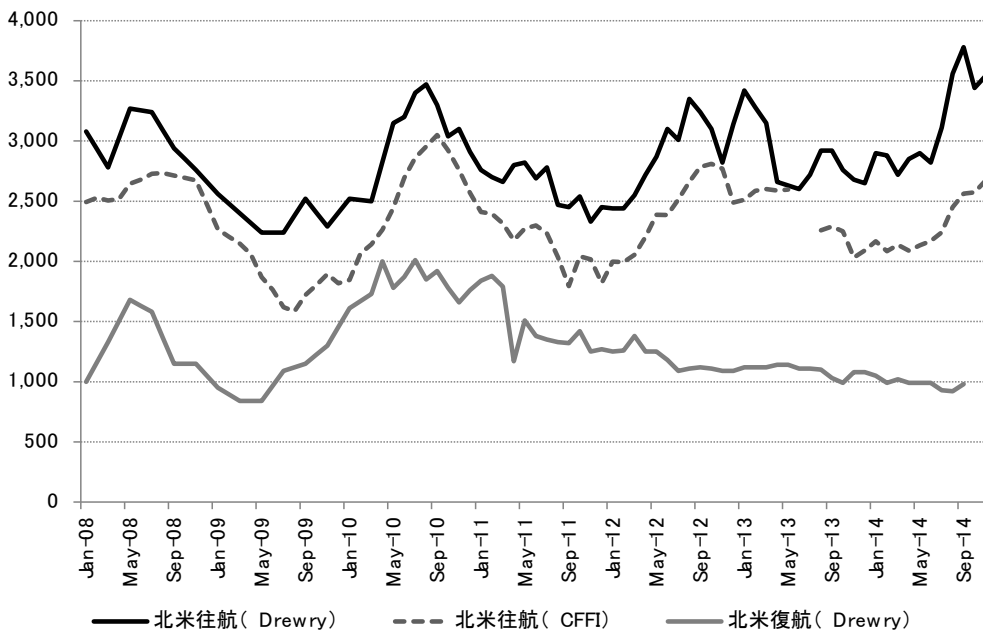


図 - 6 欧州航路における運賃指数の推移 ( 単位 : ドル/TEU )

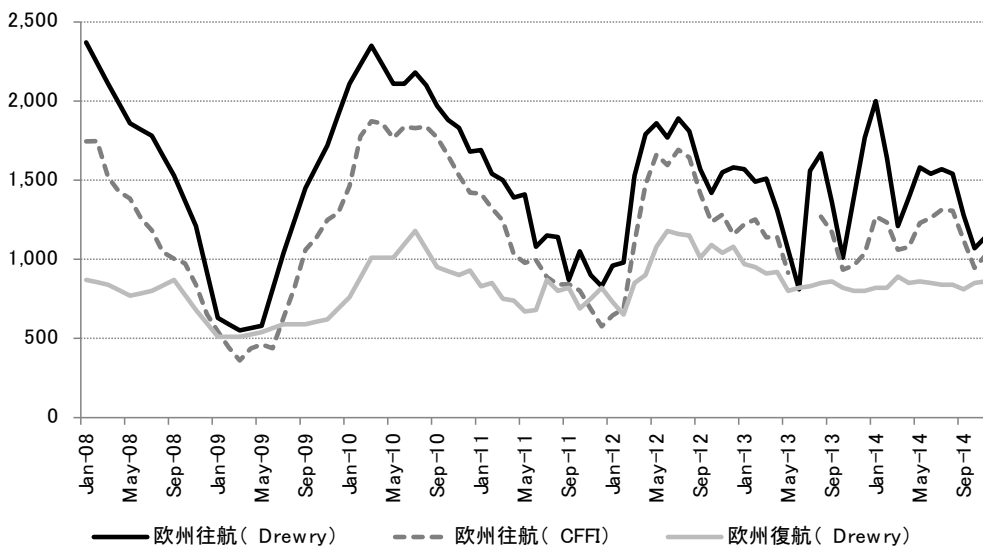
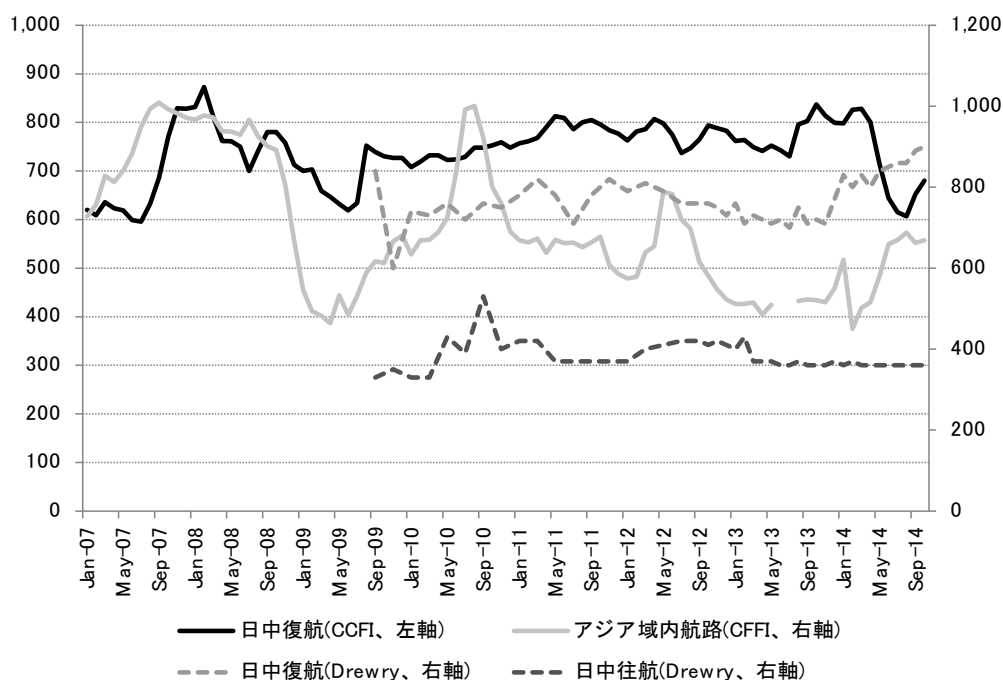


図 - 7 日中航路・アジア域内航路における運賃指数の推移 ( 単位 : 指数 ( 左軸 )、ドル/TEU ( 右軸 ) )



( 参考 ) 輸送量・運賃データの出所

- ・ 北米航路輸送量 :
  - ・ PIERS ( Port Import/Export Reporting Service ) データ
- ・ 欧州航路輸送量 :
  - ・ ELAA ( European Liner Affairs Association; 欧州定航協会 )、Container Trade Statistics Ltd.
- ・ アジア域内航路輸送量 :
  - ・ SCAGA

注意 1 : アジア域内航路の荷動き量については連続性が確保されていない

注意 2 : アジア域内航路は、日本、中国、韓国、台湾、香港、フィリピン、マレーシア、ベトナム、カンボジア、インドネシア、マレーシア、シンガポールの 12 か国が対象
- ・ 日中航路輸送量 ( トンベース ) :
  - ・ ( 公財 ) 日本海事センター企画研究部 ( 注意 : 財務省貿易統計に基づきトンベースで推計 )
- ・ 北米航路、欧州航路運賃指数 ( 往航では ( CI,Drewry ) と示した列、復航 ) :
  - ・ ( 隔月 ( 一部毎月 ) ) Drewry "Container Freight Rate Insight" ( 南中国 ( 塩田 ) と米国東岸 ( ニューアーク )、英国 ( フェリックストウ ) 間の運賃 )
- ・ 北米航路、欧州航路運賃指数 ( ( CCFI ) と示した列 ) :
  - ・ 中国国際海運網ウェブサイト <http://en.shippingchina.com/scfi/index/index.html>
- ・ アジア域内航路運賃指数 ( 毎月 ) :
  - ・ 中国国際海運網ウェブサイト ( 中国・東南アジア間航路の運賃指数 )
- ・ 日中航路運賃指数 :
  - ・ Clarkson Research "China Intelligence Monthly" ( 上海航運交易所発表の中国輸出コンテナ運賃指数 ( ( CCFI ) と示した列 ) ) :
    - ・ **Drewry "Container Freight Rate Insight" ( 中国 ( 上海 ) と東京/横浜間の運賃 ) : 2014 年 4 月発表の資料より変更**
- ・ BDI ( バルチック海運指数 ) :
  - ・ トランプデータサービス "World Maritime Analysis"
- ・ 円ドルレート :
  - ・ FRB ウェブサイト <http://www.federalreserve.gov/econresdata/releases/statisticsdata.htm>